

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202657		
法人名	株式会社ヴォルフアート		
事業所名	グループホーム神根苑		
所在地	埼玉県川口市安行領根岸1260		
自己評価作成日	平成23年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-1170202657.jp">http://www.kohyo-1170202657.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88		
訪問調査日	平成23年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様各人に寄り添ったケアに取り組んでいる。  
 「その人にとって、どうすることがより良いのか？」を全スタッフが常に考え、気づきなども含めて話し合い、ケアに反映させている。  
 また、住環境においても、清潔で明るい雰囲気の中で、気持ち良く過ごせるように配慮し、安心した生活を送って頂けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりに対して、どうすることが本人にとって良いのかをいつも考えており、利用者の個人記録には、いろいろな職員の目から見て気付いたことが記録されている。会社の運営方針にもあるように、事業所では、職員と利用者が一緒に炊事、洗濯、買い物等を行っており、認知症になっても尊厳のある暮らし、その人に合った暮らしを継続できるよう支援している。また、地域の人々との関わりを大切にし、ボランティアや中学生の職場体験の受け入れ、保育園との交流も盛んである。デイサービスを併設しているため、地域のデイサービス利用者とは日常的に交流し、馴染みの関係となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	解りやすい理念をかがげ、全体会議などで日常的に確認しあいながら、日々の介護に繋げている。	会社の運営方針をもとに作られた理念は、毎月ほぼ全員参加である全体会議にて管理者が説明し、それを皆で話し合うことでお互い確認し、ケアの実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事に参加している。 また当施設の夏祭りなどのイベントにも広く声をかけ、近隣の方々に来苑して頂いている。	事業所自体が町内の一員として認められ、町内会のいろいろな行事や活動に参加している。事業所の行事にも、地域へ参加を呼びかけており、夏祭りは近所の子供たちの楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が、相談や話を聞きに来たりすることも増えており、丁寧に応じている。 しかし介護教室などはまだ行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では最近の取り組みや、防災関係など のことを報告したり、話し合ったりしている。	町内会の役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等を主なメンバーとして会議を行っている。事業所の状況報告の後、その時々課題について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、福祉課などと出来るだけ密に、報告、連絡、相談、を行っている。	市の担当者とは、直接訪問、電話、FAX、メール等いろいろな方法で、申請や報告等の連絡や相談をまめに行っており、良い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアはスタッフ全員で統一した理解が出来ており、実際に行っていない。	職員は、身体拘束についての研修を重ね、身体拘束をしないケアを実践している。1階から3階まで行き来が自由であり、1階のデイサービス利用者と交流を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などで、虐待防止の意識を統一し、認識も出来ている。虐待は行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加やパンフレットなどを活用し、情報の提供、制度について理解を深めている。 現状はまだ制度の利用を必要としていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族と十分な時間を取り、重要事項説明書などの内容にも納得のいく説明を行い、質問、疑問に対しても十分理解して頂けるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・各種相談窓口を設けたり、身近なスタッフなどへも話しかけやすい雰囲気を作るよう心がけ、意見を聞いている。頂いた意見には早急に対応をしている。	家族の面会時には、職員だけでなく、管理者もできるだけ話を聞くよう努めている。日常的な面談やメール、電話等の利用に加えて、意見を聞き取る方法や質問内容を検討している。	新たな意見、提案を聞く方法や質問内容を検討することで、さらにサービスの質が向上することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロアー会議、リーダー会議などで出来るだけ意見を聞くように心がけている。またいつでも管理者に希望など伝えられる雰囲気作りに努めている。	会議も職員の意見、要望を聞く機会としているが、管理者は、日頃から職員が意見を出しやすくなるよう心がけている。職員から出た意見、要望等には、速い対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、フロアーリーダーから、意見を聞き、改善出来る点があれば実行して、常に職員の意見に耳を傾けるよう、努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修でのアドバイスの積み重ねや、GH協議会の研修会にも参加している。尚、当社で仕事を始めてからヘルパー2級や介護福祉士の資格を取得するスタッフも増えてきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社協やGH協議会の研修などに出席させたり、地域のケアマネ交流会などにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時から、ご本人と出来るだけお会いして、状況を把握するように心がけている。実調を経て入居段階では、ある程度の信頼関係が生まれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に、入居相談の時より充分なお話し合いをさせて頂いている。その中でどの要望や必要と感じた対応などにはご本人のものも含めて、入居前のケアプランに盛り込んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、様々な側面よりアプローチしながら、ご本人とご家族の話を傾聴している。また担当ケアマネさんとも連絡を取り合い、その時々合ったより良いサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性をいかし、日常生活の中の仕事を、ゆっくりと、一緒に行っている。出来ることを続けて行きながら、本人の役割に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは出来るだけ密に連絡を取り合いたいと考え、様々な情報提供、報告や相談をしている。面会回数の少ないご家族に対しては、文書、電話、メールでのやりとりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、親戚、地域の人々の面会、交流を積極的に受け入れている。また法事や同窓会、コンサート、なじみの店への外出なども、ご家族の協力を得て支援している。	馴染みの人や場とのつながりを大切に考え、美容院、コンサート、同窓会、家族旅行等へもこれまで通り行くことができるよう、家族の協力を得ながら支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関わり方や、各個人の集団性、好みなどを把握した上で、細かな見守り、声かけを心掛けている。時には関係が円滑にいくような状況設定や橋渡しを行う時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後で、頻繁に連絡を取り合うことは、ほとんど無いのが現状だが、相談などの連絡があった時は丁寧に対応している。他施設に移られた方でも折に触れ近況を報告して下さるご家族もいらしゃる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中で、ご本人と会話をすることを心掛け、その中から希望や意向を引き出すように努めている。またご家族などからの情報も併せて話題に反映させている。	日常会話の中から一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。決まった生活スタイルではなく、できるだけ好きなように過ごせるよう、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に個人票の記入をお願いしている。その中で今までの暮らしに関わる内容を把握出来るようになってきている。また情報の不足分に対してはその都度、関係の方々より聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録、バイタル表の記入により漏れの無いようにしている。また各個人への様子観察も充分に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	神根苑独自のアセスメント票を用い、スタッフ、フロアリーダー、計画作成担当と協働し合いながら充分なモニタリングを行い、ケアプランを作成している。	利用者一人ひとりに対し、複数の職員がそれぞれの視点からみたこと、考えたことを記録している。介護計画は、本人、家族の希望をもとに、利用者にとってどうすることがよいかを皆でいつも考えながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人々の生活記録記入にあたり、当日出勤のスタッフ全員が関わることで、気づきなどの幅が広がっている。記録より上がった情報はケアの内容に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門科病院の受診や外出、宿泊など、ご家族の様々な要望に対し、臨機応変出来る限りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の活動の柱は、地域のボランティアさんなどの力を借りて、大きな催しものを開催したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、内科の往診があるが、入居前から受診している医療機関に引き続き通院している利用者様もあり、選択は自由になっている。	2週間に1回の内科の往診と、週に1回の歯科衛生士の訪問があるが、家族対応にて、希望するかかりつけ医を受診することが可能である。入院設備の整った医療機関との連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携しており、2週間に一度の訪問がある。24時間体制で指示を受けられ、看護師と内科往診医との連絡も密である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は各病院のソーシャルワーカーさんとの連絡を密にし情報を交換している。退院が可能になった場合は、すみやかに受け入れが出来るように体勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各個人々の状況により対応がすべて異なるため、ターミナルの希望がある場合は、出来ることと出来ないことの詳細をご家族にきちんと説明し、納得して頂いた上での取り組みとなっている。 過去に1名、看取りを行っている。	過去に看取りの経験もあり、ターミナル対応の体制は整っている。重度化した場合や終末期のあり方については、きちんと説明し、同意を得ているが、利用者の状況に応じて随時、家族の意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に対してのマニュアルに沿った緊急連絡を取るようになっていく。H22年にAEDの設置も行い、スタッフのほとんどが、救急救命の講習を終えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防各所と協働し、訓練を行い、訓練後に、スタッフ間でより良い避難の方法を話し合っている。 また、運営推進会議などでも近隣への協力をお願いしている。スプリンクラー設置済	消防署立会いのもと、年2回避難訓練を行っている。夜間想定での訓練もっており、火災時の避難方法については、消防署と約束を交わしている。近所に住む職員も多く、非常時の援助体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の内容、口調などにも敏感なところがあるので、十分に配慮している。又トイレの声掛けなども人前でなく、小さな声で行うような注意もしている。	一人ひとりの人格を尊重し、排泄支援の際は、さりげなく声かけを行っている。希望にもよるが、プライバシー確保のために、居室のドアを開けたままにしない等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の伝えたい気持ちを尊重し、ゆっくりとお話を聞く姿勢を心掛けている。また自分で決めるのが難しい事柄などに対しては、どちらかを選ぶというような方法なども試みている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で各利用者様の動きや、気持ちをスタッフサイドで感じるよう努めている。ご本人の希望があれば、出来るだけ添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容には、細かに気を配るようにしている。その他化粧など支援や、外部の美容院の利用、また訪問の理・美容師さんにより希望にあったヘアスタイルをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事配膳や食器拭きなど出来ることをいっしょに行っている。また誕生会などでは、本人のお好みにスタッフ手作りのデザート類をお出ししたり、希望に添ってメニュー変更し、利用者様皆と作り、食している。	栄養管理された食材を仕入れ、利用者と職員が調理から盛り付け、片付けまでを一緒にやっている。無理強いすることなく、やりたい人ができることを行っており、食べたい物を考え、それを皆で作る日も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をバイタル表に毎日記録し、確認している。また食材業者さんの栄養士により、バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけ、介助は毎食後施行。拒否のある方にも、一日一回はきちんと歯を磨き、その他は洗口だけでも行って頂くなど、工夫している。尚週に一回、歯科衛生士による口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄状況を把握し、こまめな誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄を行えるよう支援している。安心出来るような声かけ、見守り、介助を行い、トイレの位置も分かりやすく表示している。	現在、おむつを使用する利用者はおらず、職員は利用者ができるだけトイレで排泄できるよう支援している。職員同士も声をかけ合い、利用者のその日の体調も考慮しながら排泄の声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には水分や野菜を多めに摂取したり、軽度の運動をして頂いている。便秘改善のため定期的な服用をしている方もいらっしゃる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に5回の入浴を実施し、本人の希望に添えるようにしている。お風呂嫌いな方にも時間を開けての声かけなど、気分を変え、ゆっくりと、1人ずつの入浴を行なっている。	基本的に週5日、午後に入浴しているが、無理強いすることなく、利用者のその日の希望を優先するため、一人ひとり入浴回数は異なっている。ゆっくり入浴を楽しめるよう、個別対応で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠パターンも違うため、その時の希望や体調に合わせて、居室やホール内の好きな所で休息して頂いている。また室温調整、調光、布団干しやシーツ類の清潔保持を励行している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの薬のケースに常に最新の薬状を入れ、必要時にすぐ確認出来るようにしている。新しい処方の際は変化の様子観察に努め、毎日記入するバイタル表にも薬の情報を盛り込んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に行ったり、玄関先の花を見に行ったり、食事・おやつを充実させ、誕生会などのイベントを楽しんで頂いている。また台所仕事やゴミ捨て、洗濯たたみなど、それぞれの得意なことを役割としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望がとても多く、一日に数回出かける方もいる。買い物に行ったり、季節に応じて外出するイベントもある。又、家族と外出や食事に行かれる方もいらっしゃる。	散歩の要望が多く、毎日の日課となっている。車を利用し、買い物や公園等に出かけることも多い。季節に応じた楽しみを見つけ、外出の支援を行なっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム側でお預かりしている。本人の希望で少額の現金を個人で持っている方もいるが、買い物時に自ら支払える人は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるお手伝いをし、かかって来た電話の取り次ぎもしている。以前は自分の携帯を持参の方もいらした。自分で手紙を書く方はほとんどいないが地方のご家族などから届く手紙、ハガキは多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには光と風が差し込むようになっている。カーテンや空調で調節を行い、季節に合わせた飾り物、工作物、植物なども置いている。またイベントや日常の写真なども貼りだしたり、好みの音楽などもかけて、喜ばれている。	共用空間である居間は、とても明るく清潔感があふれている。壁面には季節に合った作品が飾られ、利用者の目を楽しませている。広い廊下にはソファが置かれ、居間以外でも利用者がそれぞれ好きな場所で過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、広めの廊下には様々なソファやイスが置いてあり、好みの場所でそれぞれ自由な時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室内には今まで使用していた家具類を可能な限り持ち込んで頂き、自宅に居るような雰囲気になるようにしている。また本人の趣味の飾り物などで、その人らしい個性のある居室になっている。	居室には、マッチやライター等危険物以外は何でも持ち込み可能であり、利用者は、仏壇、冷蔵庫、テレビ、タンス等使い慣れた物、それぞれの暮らしに必要な物を置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人に必要なが生じた段階で、手すりなどの設置も行い、素早い対応をしている。また他のフロアへ遊びに行ったりする時も、スタッフ間の連携、連絡で危険回避し、自立した行動が出来るよう支援している。		